

アトサヌプリの火山活動解説資料（令和4年10月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～②、図2～7）

監視カメラによる観測では、F1噴気孔群の噴気の高さは火口上300m以下、F2噴気孔群の噴気の高さは火口上200m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

18日から21日にかけて実施した現地調査では、前回の観測（2021年8月）と比べて、アトサヌプリ溶岩ドームに点在する噴気孔や熊落し火口の状況に変化はなく、熱活動に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-③）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。
火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図8）

GNSS連続観測では、アトサヌプリカルデラを囲む基線で短縮の変化が観測されていましたが、2021年秋以降伸長しています。

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年11月分）は令和4年12月8日に発表する予定です。

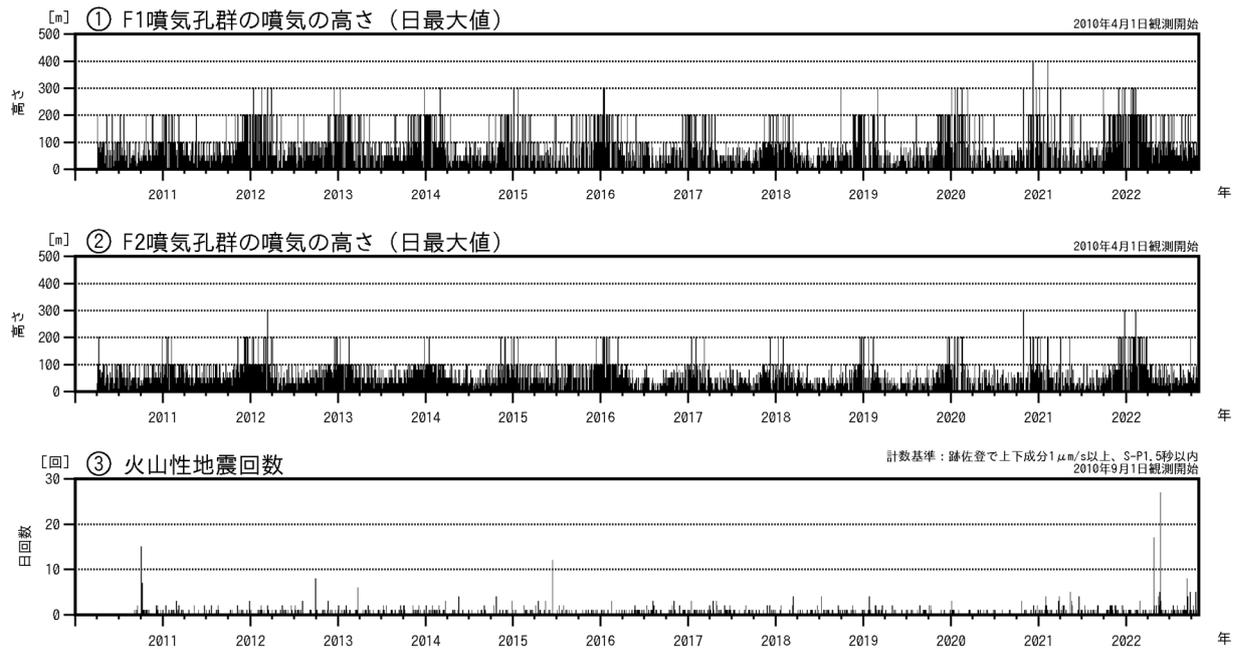


図1 アトサヌプリ 火山活動経過図（2010年4月～2022年10月）



図2 アトサヌプリ 北東側から見たF 1 噴気孔群及びF 2 噴気孔群の状況
（北東山麓監視カメラによる）

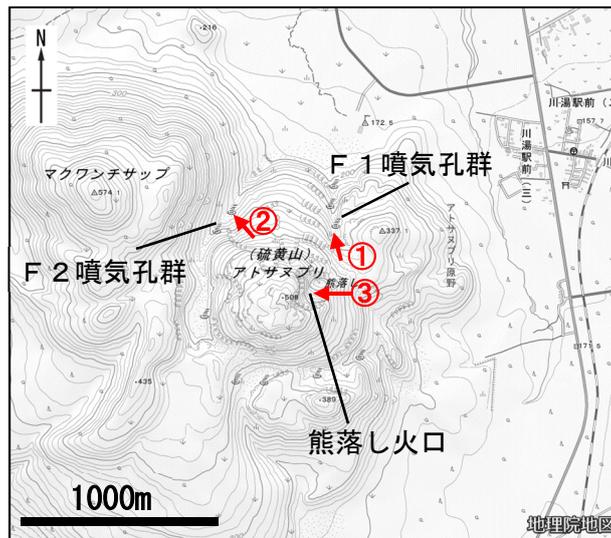


図3 アトサヌプリ 火山周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

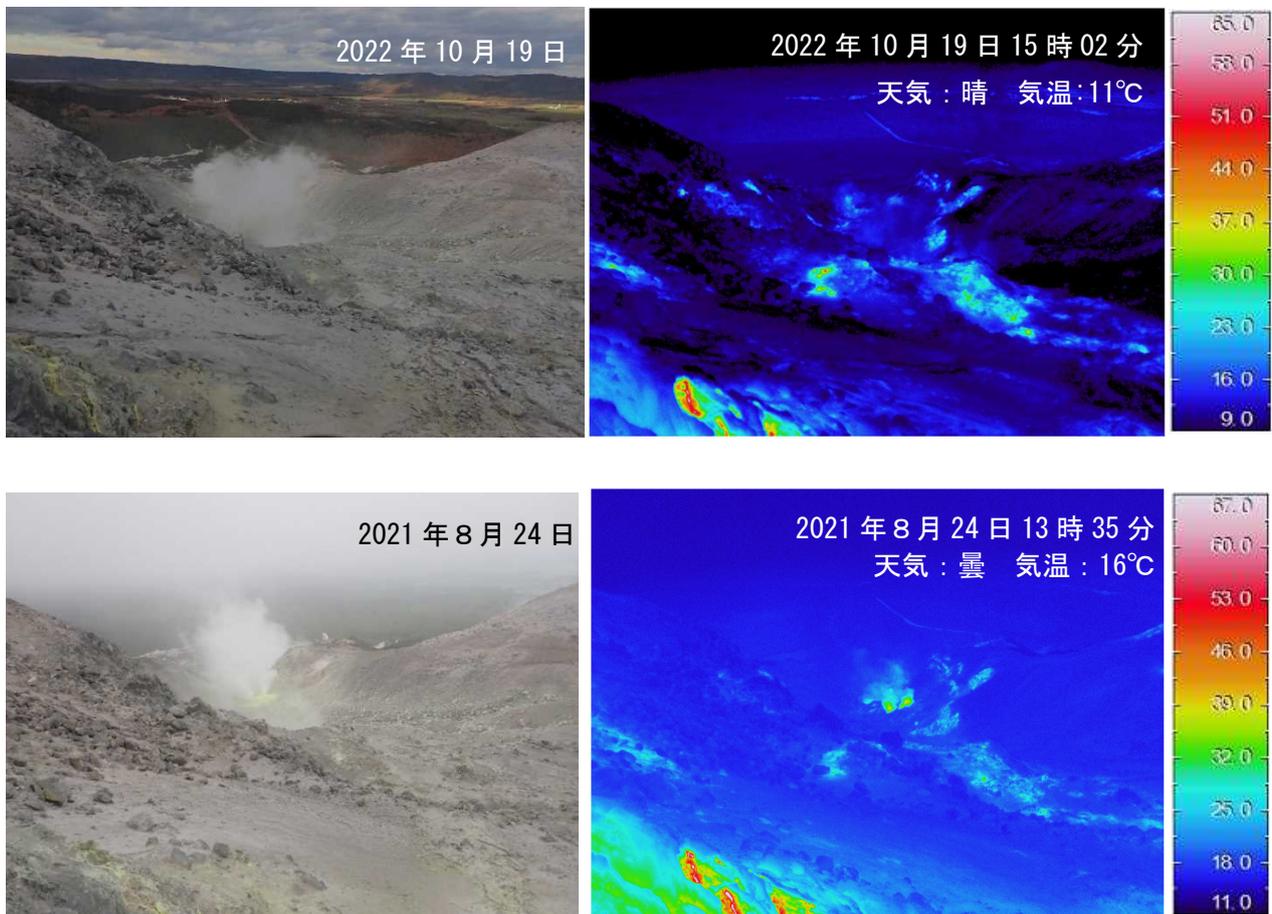


図4 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF1噴気孔群の地表面温度分布
（図3の①から撮影）

- ・ 前回の観測（2021年8月）と比べて、噴気の影響で一部の地表面温度分布の見え方に違いがありますが、変化は認められませんでした。

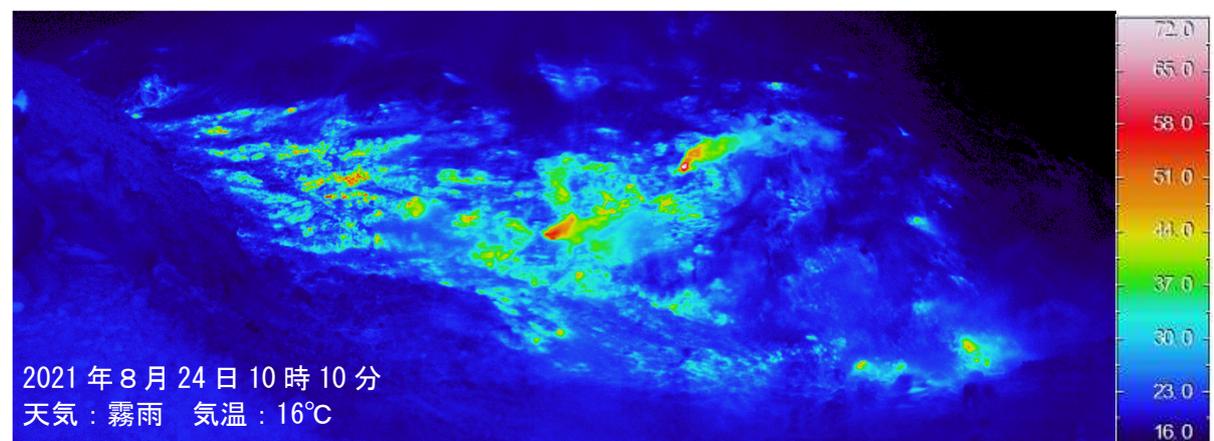
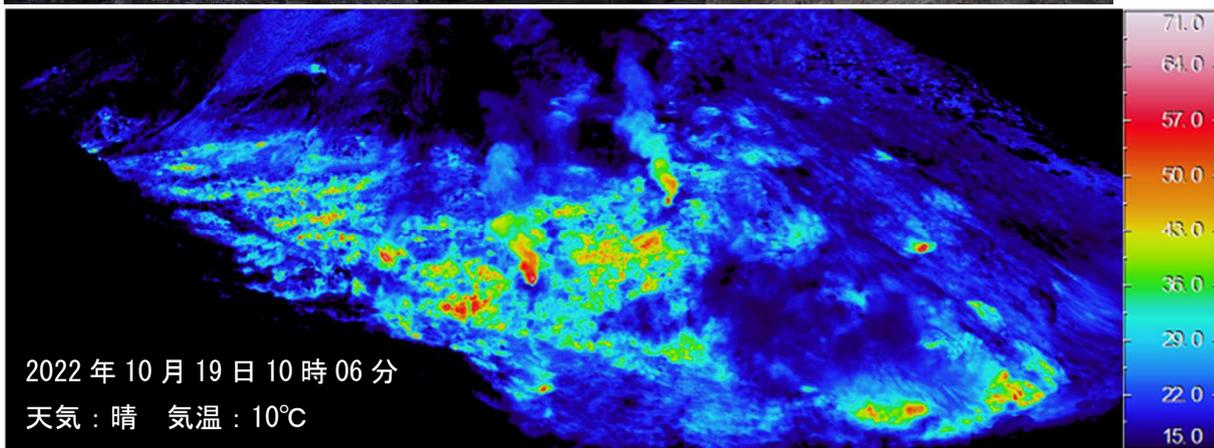


図5 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF2噴気孔群の地表面温度分布
(図3の②から撮影)

- ・前回の観測（2021年8月）と比べて、噴気の影響で一部の地表面温度分布の見え方に違いがありますが、変化は認められませんでした。

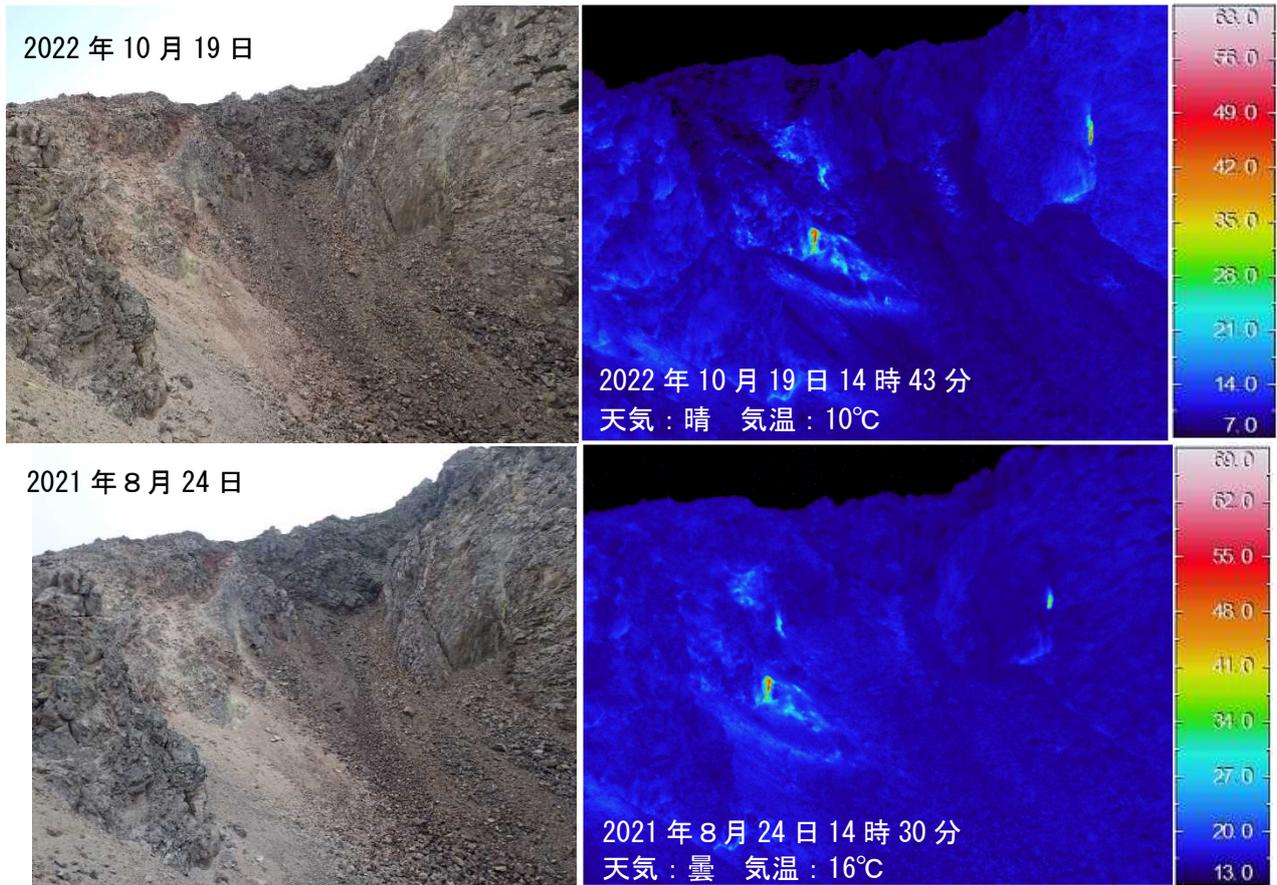


図6 アトサヌプリ 赤外熱映像装置による熊落し火口の地表面温度分布
 (図3の③から撮影)

・前回の観測（2021年8月）と比べて、地表面温度分布に変化は認められませんでした。

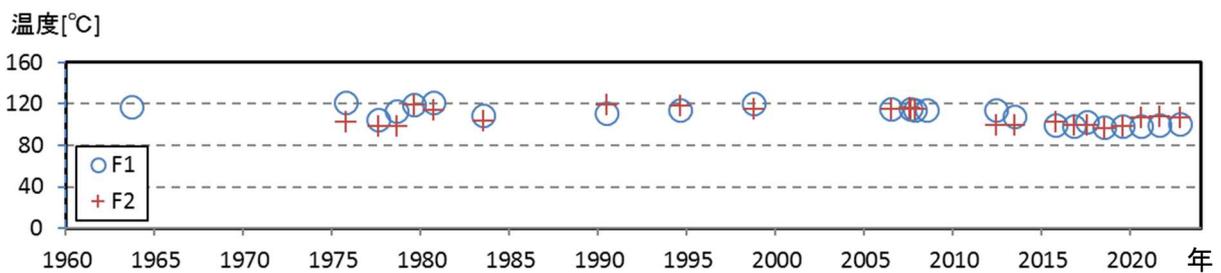
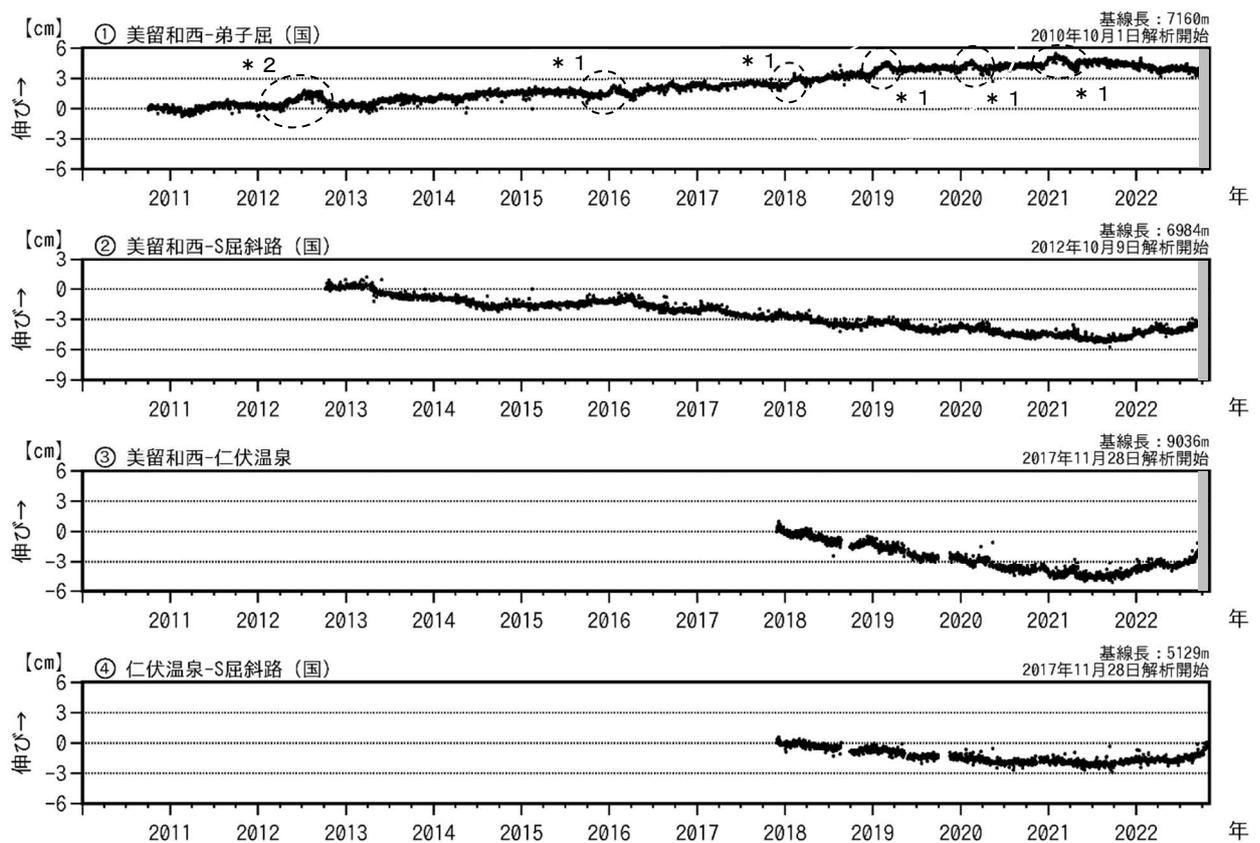


図7 アトサヌプリ 熱電対温度計によるF1・F2噴気孔群の最高温度（1963年～2022年）

・F1噴気孔群及びF2噴気孔群の噴気温度は100°C前後で推移しています。



アトサヌプリカルデラの
 - - - カルデラ縁(勝井, 1958) * 3

図8 アトサヌプリ GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2022年10月）及び観測点配置図

- ①の破線内の変動（* 1）は、美留和西観測点の凍上によるものと考えられます。
- ①の破線内の変動（* 2）は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採によるものです。
- グラフの空白部分は欠測を示します。
- グラフの灰色部分は美留和西での観測機器更新に係る作業中であることを示します。
- * 3 勝井義雄（1958）阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。

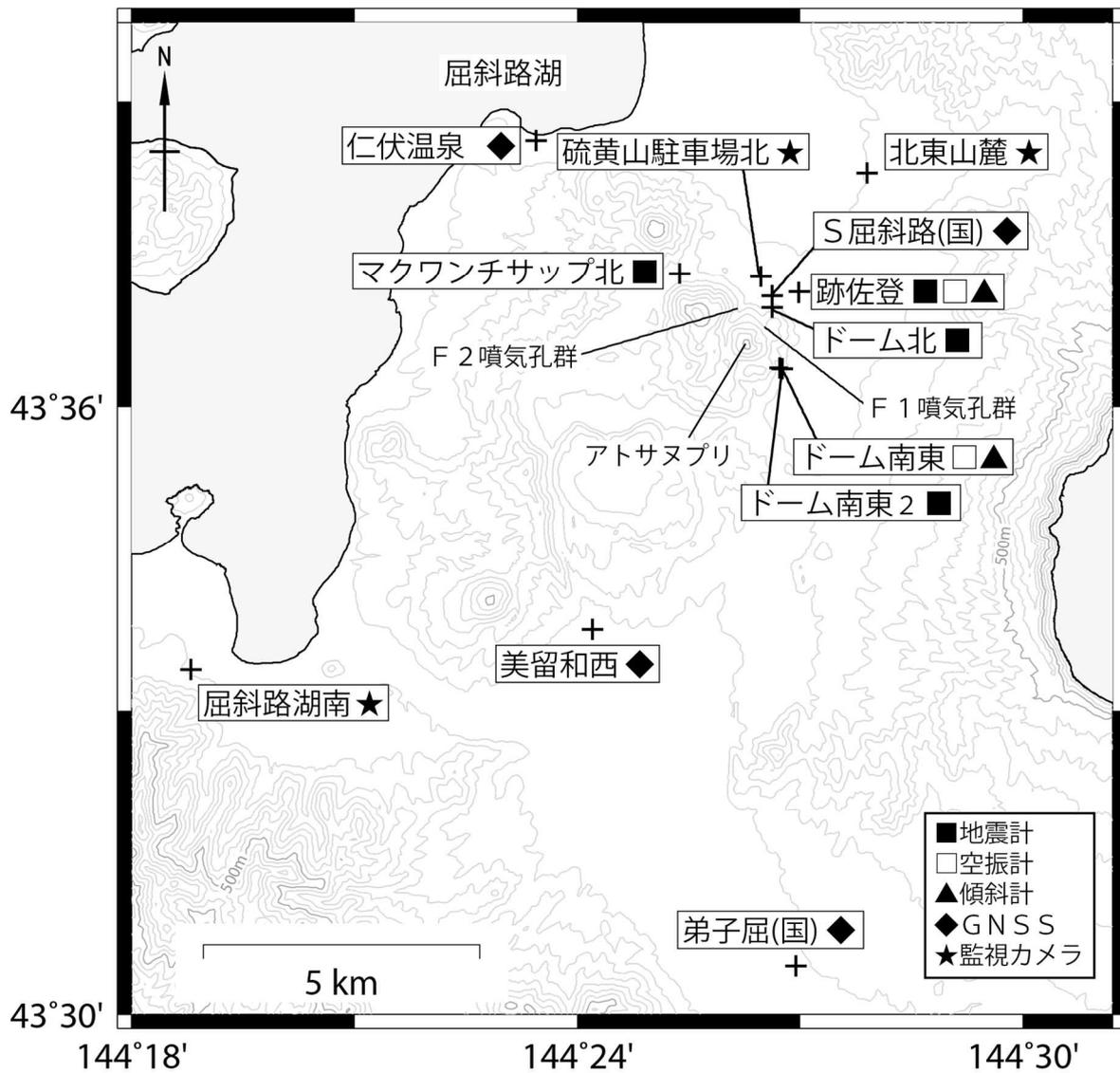


図9 アトサヌプリ 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院